

防災機能の向上・物流の円滑化・観光振興に大きな期待！

～ 主要地方道むつ尻屋崎線 岩屋バイパス開通式 ～



(写真左より)小笠原清春 東通村議会議長、小桧山吉紀 青森県議会建設副委員長、宮下宗一郎 むつ市長、越善靖夫 東通村長、武田志郎 下北地域県民局長、越前陽悦 青森県議会副議長、横浜力 青森県議会議員、菊池憲太郎 青森県議会議員

7月1日、全長4,040mに及び主要地方道むつ尻屋崎線岩屋バイパスが供用開始となりました。

岩屋バイパスの整備は平成5年度に県の単独事業として着手されました。その後、保安林の解除や埋蔵文化財の調査を経て、平成17年に国の補助事業として着工し、一日も早い供用開始が悲願となっていました。

式典では関係者60名が出席する中、越善村長がこれまでの関係者のご尽力・地域住民のご理解とご協力に深い感謝の意を表し、これからの岩屋・尻屋地区、ひいては下北地域の発展に期待を寄せました。その後、開通を祝してテープカットが行われ、出席者の皆さんにより「通り初め」が行われました。

開通したバイパスは岩屋集落の山側の高台を通り、11.5mとなる総幅員は既存道路の2倍以上となります。

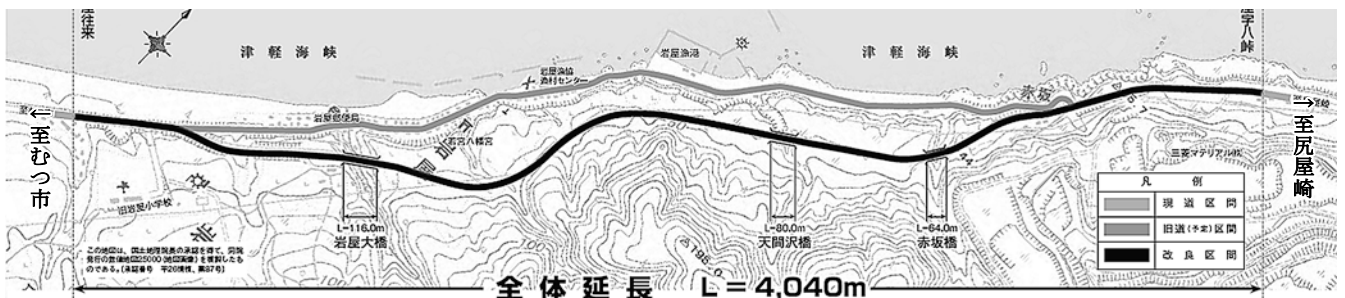
岩屋集落内を縫うように通っている既存区間は、道幅が狭いことに加え、冬期間の積雪や凍結、急勾配・急カーブ区間が通行に支障をきたしていました。また、尻屋地区の工場や漁港施設へ行き来する

大型車両や、尻屋崎へ向かう観光客の交通量も多いため、交通安全はもとより災害時や救急時の対応も懸念されてきました。

この度の岩屋バイパス開通がこれらの課題を解消し、交通安全だけでなく、村産水産物や立地企業の物流効率化による産業振興、尻屋崎を含む観光振興のための大きな力となることが期待されます。加えて、海岸沿いに位置する岩屋集落にとっては大津波等の災害時の避難道としても活用でき、防災機能の向上やスムーズな救急・消防活動にも大きく寄与するものです。



式辞を述べる越善村長



旧道（図の上側の太線）の山側を沿うようにバイパス（下側の太線）が整備されました